

# 福島第一原子力発電所の状況

平成 26 年 9 月 4 日  
東京電力株式会社

## < 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (9/4 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 2.0 m <sup>3</sup> /h	30.0 °C	3.8 kPa g	A系： 0.01 vol%
		給水系：約 2.5 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.00 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 2.5 m <sup>3</sup> /h	37.7 °C	6.90 kPa g	A系： 0.03 Vol%
		給水系：約 2.0 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.03 Vol%
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 2.3 m <sup>3</sup> /h	36.5 °C	0.21 kPa g	A系： 0.06 Vol%
		給水系：約 1.9 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.04 Vol%

## < 2. 使用済燃料プールの状況 > (9/4 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	28.0 °C
2号機	循環冷却システム	運転中	25.9 °C
3号機	循環冷却システム	運転中	25.5 °C
4号機	循環冷却システム	運転中	24.9 °C

※1 各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルへヒドラジンの注入を適宜実施。

### 【4号機】

- ・H26/9/2 5:23 4号機使用済燃料プール代替冷却系について、当該系循環冷却設備一次系フレキシブルチューブの交換等を行うため、冷却を停止(停止時プール水温度:24.7°C)。
- H26/9/3 17:05 作業が終了したことにより、使用済燃料プール代替冷却系を起動。運転状態に異常はない。使用済燃料プール水温度は 25.0°Cであり、停止時の 24.7°Cからの上昇は運転の制限値(65°C)に対して余裕があり、管理上問題ない。

## < 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	→	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	→	集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物減容 処理建屋[高温焼却炉建屋])	9/3 10:47 ~ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	→	集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物減容 処理建屋[高温焼却炉建屋])	8/19 16:18 ~ 移送実施中

## < 4. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (9/4 11:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種除去設備 (ALPS)
運転 状況	停止中*1	運転中*1	停止中	水バランスを みて断続運転	水バランスを みて断続運転	ホット試験中*2

\*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。

\*2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

- ・H26/8/20～ 今後、設置が計画されている高性能多核種除去設備の除去性能及び吸着材の交換周期等を検証するため、検証試験装置を用いて、実液通水による検証試験を実施。試験期間は3ヶ月程度を予定。

## <5. その他>

- H26/1/29～ 2号機海水配管トレンチ凍結止水工事における凍結管を設置するための削孔について、凍結管を設置するための削孔を実施中。削孔作業と並行して、3/27より挿入作業ができるようになった孔から順次、凍結管およびパッカー挿入の作業を開始。
  - 4/2～ 挿入が完了した凍結管について凍結を開始。
  - 7/28～ 2号機海水配管トレンチ立坑Aの止水壁造成に向けた追加対策として、滞留水の冷却を目的にトレンチ内へ氷・ドライアイスの投入をすることとしているが、7/24、25に実施した試験投入の結果を踏まえ、7/28より氷の本格投入を開始。
  - 8/12～ ドライアイスを追加で投入開始。
- H26/3/14 13:35～ 共用プール西側において、凍土遮水壁の実証試験(凍結試験)を開始。
- H26/6/2～ 凍土遮水壁工事を開始。
- H26/8/29 3号機使用済燃料プール内瓦礫撤去作業において、12:45頃燃料交換機の操作卓をクレーンにてつり上げるため専用治具で操作卓をつかもうとしたところ、操作卓が当該プール東側中央付近に落下。3号機使用済燃料プール内瓦礫撤去作業は遠隔作業により無人で行われており、作業員の負傷はない。3号機使用済燃料プール付近の線量は3.2mSv/hで通常値と変化はなく、発電所構内の線量とともに継続監視中。3号機使用済燃料プール代替冷却系については、8/25より停止していたが、プール水の放射能分析のため、8/29 14:37に起動。
- 8/30 水中カメラによる確認結果は以下のとおり。
  - ・使用済燃料プール内に散乱している瓦礫の堆積により、燃料ラックおよび燃料の目視確認はできなかった。
  - ・使用済燃料プール内に落下した操作卓と共に、操作卓が据えつけられていた架台の一部(約170kg)が落下していたことがわかった。
  - ・落下物の位置、使用済燃料プール内の機器材の配置により、落下物は燃料ラック上部に設置している養生材に落下した後、燃料ラック上部の瓦礫の上に着床したと推定。
  - ・落下物の下部に燃料が2体あることをお知らせしたが、水中カメラの確認による落下物の位置から、落下物の下部に燃料が10体程度あることを確認。
- 3号機使用済燃料プール水の放射能分析と関連パラメータ
  - <使用済燃料プール水の放射能分析の結果(採取日:9/3)>
    - ・セシウム 134:  $2.1 \times 10^2$  Bq/cm<sup>3</sup>
    - ・セシウム 137:  $6.4 \times 10^2$  Bq/cm<sup>3</sup>
    - ・コバルト 60: 検出限界値未満(検出限界値  $7.7 \times 10^{-1}$  Bq/cm<sup>3</sup>)
  - <関連パラメータ(9/3 16:00 現在)>
    - ・モニタリングポスト : 有意な変化なし
    - ・原子炉建屋オペフロ雰囲気線量 : 有意な変化なし
    - ・使用済燃料プール水位 : 有意な変化なし
    - ・スキマーサージタンク水位 : 有意な変化なし
- 分析結果については、前回と比較して有意な変動がないこと、また、関連パラメータに有意な変動がないことから、燃料破損等の兆候は確認されていない。
- H26/9/4～ 燃料取り出しに使用している4号機原子炉建屋及び共用プール建屋の天井クレーンと燃料交換機の点検が終了したため、燃料取り出しに係る作業を再開。
- H26/9/4 12:04頃、G4タンクエリアのA5タンクとA6タンクの連絡弁より水が滴下していることを、A4タンクからA5タンクへの水張り作業中の当社社員が発見。滴下している水はRO濃縮水(淡水化装置で発生した濃縮水)で、堰内に留まっており、堰外への流出はない。また、応急処置として滴下箇所をビニール袋で養生し、水を受けている。その後、現場を確認したところ、連絡弁のボディ一部にひび割れらしきものが確認され、現在も数秒に1滴の滴下は継続。今後、A5タンクから仮設ポンプにてA4タンクへ水を送り、A5タンクの水位を下げる操作を実施予定。
- H26/9/5～ サブドレン他水処理施設については、安定稼働に向けた各種試験を行っているが、9/5～9/9にかけて、これまでの試験において汲み上げた地下水をサブドレン他水処理施設の浄化装置に通水し、循環運転を行い、健全性の確認(連続循環運転)を行う予定。

### 【地下水バイパス揚水井の状況】

- 地下水バイパス揚水井 No.1～12 のサンプリングを継続実施中。
- 1～4号機原子炉建屋等への地下水流入抑制対策として設置した地下水バイパス設備について、地下水バイパス一時貯留タンクグループ1の当社および第三者機関による分析結果[採取日8月25日]については同等の値であり、ともに運用目標値を満足していることを確認したことから、9/3 10:00、海洋への排水を開始。同日 10:17 に漏えい等の異常がないことを確認。同日 16:23 排水を停止。排水量は1,559m<sup>3</sup>。なお、排水停止状態に異常はないことを確認。

**【H4,H6エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連】**

<H4エリア周辺のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<H6エリア周辺のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

**【タービン建屋東側の地下水調査／対策工事の実施状況】**

<地下水観測孔サンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

**【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】**

<地下貯水槽サンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以上